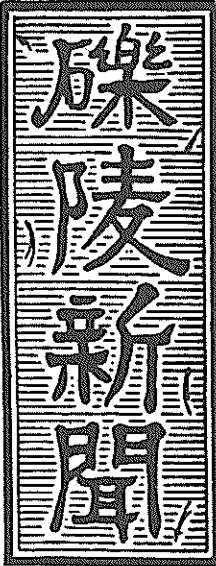


颯爽と卒業生旅立つ

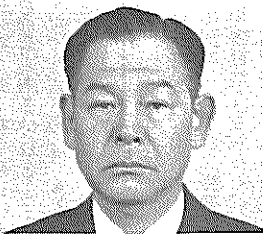


発行所 新開部
若松市若松区小石
北九州市若松区小石
発行所 新開部
若松市若松区小石
印刷所
街高塔印刷(771)2894

祝卒業

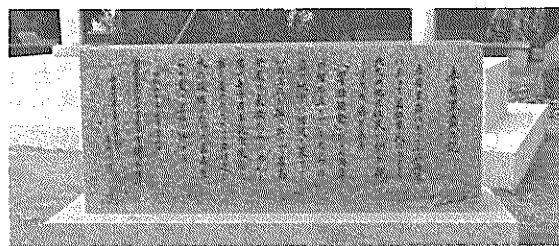
三たび「蘇る赤岩黒岩」について

学校長 吉開 和男



70周年記念式典の式辞でも述べたが、本校の前身若松高等女学校は明治45年(1912)、若松中学校は大正7年(1918)の創立にかかると、今年で昭和61年(1986)であるから、若松高等女学校は74年、若松中学校は68年を経たことになる。この両者が完全合併したのが昭和24年(1949)だから、統合後も37年、新1年生が卒業するときは、40周年に当たることになる。旧制女学校、中学校、新制高校を通じて若松市の優秀な若松人、若松市で学んだのであるから、卒業生の築いた実績と成果は、他の高校に比して決して優るとも劣らぬものであったことは世人の周知しているところである。

私が本校に教員として在職した終りのころの記録、昭和43年3月の大学合格状況をみると、「今年の入試は九大合格十七名で、この数年の最低であったが、東大二名、東北大五名、岡山大四名、広島大六名と各地に分散したのが特徴であった」とある。(六十年史)また毎日も37年、新1年生が卒業日女関を歩いて見る陣列場



創立70周年記念式典を機に、温故知新、古きよき時代を回顧し新しい幕明けへの決意をかためなければならぬ。小石海岸にあった「赤岩黒岩」を発掘して、正面玄関に掲げたのも、そのような思い入れがあったからでなく思っているが、諸君らが卒業して何年か経ったら「蘇り行く赤岩黒岩」を見てほしいものだと思ふ。諸君の御多幸と発展飛躍を祈る。(昭和61年1月31日完)

この一年を顧みて

教頭 川原 茂敏

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。この三年間において、高等学校の全課程を無事終了して晴れて卒業証書を受けとることに、一人一人、いろいろな思い出や感慨があるものと思ひます。

全教育課程を修了したこと、社会的に認められ、実社会や上級学校に巣立ってゆくいわば生涯における記念すべき日として、みなさんには意義深いものがあると思ひます。

ところで、みなさんが卒業する昭和六十年度は、若松にとって七十周年といふ記念すべき年でありました。七十周年に関連して、各種の事業や行事が行われましたが、これ程多くの力が結集されたこともなかったのではないかと、思ひます。

例えば、部活の強化合宿や特別活動、その他の研修に使われている同窓会館は同窓生の方々による長年にわたる努力の結晶でありました。豊富な写真や資料とその編集で好評を受けている記念写真集は、卒業生、新聞社・若松、その他の幅広い応援によるお蔭です。生徒の態度は立派だったと誉められた記念式典も、全生徒の自覚と協力があったのであります。

部活動の面でもめざましい躍進の年だったのでないでしょうか。全国大会で優秀な成績を収めた放送部、全国選手権出場にも一歩のところで涙をのんだサッカー部。総体で健闘した陸上部。直接部活と関係はなけれど、見事な活躍の馬術など、若松の力強い息吹きを感じたものでした。

学校の設備がよくなり、学習や生活の面で充実を感じ、部活での顕著な成績を見る時、生徒諸君と同様にわたし達もこの上なく嬉しむことであり、誇らしい気持ちにもなります。母校の校運が盛んになることは、在校生は勿論のこと、卒業生にとっても胸が躍ることであり、所属する職員も、益々やり甲斐を感じることであります。

いよいよお別れです。みなさんは、それぞれの目標に向って長い人生の旅立たれていかれますが、この一年の思い出は、人生の一里塚として、苦しい時にも辛い時にも、行手を照らす光明として励ましてくれるのではないかと信じています。

若松の桜の蕾や、赤岩黒岩庭園の木々も、巣立って行くみなさんを、職員や在校生と同様に温かく見送り、見守っています。澄んだ目で、もう一度しっかりと見ながら帰って下さい。若松は今後一層頑張っていく筈です。から、新聞で見たリニユース等で聞かされた、若松のこと、想い、末永く応援してくれることを期待しています。

未来へ翼を

二年 徳野 幸恵

三年生の皆さん、御卒業ようめで、深く心に残っています。おめでとございます。人生のうちで最も多感な高校生活、何と早く過ぎて行つたことでしょうか。皆さんは八十一年の人生のうち、たった三年間の若松生活を、どのようにして過ごされたのか。一人一人の感じ方は違つても、この短い間に、きつと語り尽くすに、何十年もかかるような、沢山の思い出ができたことではないでしょうか。

ドキドキと緊張の合格発表から、今日に至るまで、高校生活の軌道の上で、やたら「青春」という言葉が飛びかつたのではないですか。その「青春」に全精力をふりしぼって、文化祭や体育祭を一杯突っ走って来た先輩達の姿は、本心に駭馬のそれを感じる美しき日の君の面影。

学校設備がよくなり、学習や生活の面で充実を感じ、部活での顕著な成績を見る時、生徒諸君と同様にわたし達もこの上なく嬉しむことであり、誇らしい気持ちにもなります。母校の校運が盛んになることは、在校生は勿論のこと、卒業生にとっても胸が躍ることであり、所属する職員も、益々やり甲斐を感じることであります。

いよいよお別れです。みなさんは、それぞれの目標に向って長い人生の旅立たれていかれますが、この一年の思い出は、人生の一里塚として、苦しい時にも辛い時にも、行手を照らす光明として励ましてくれるのではないかと信じています。

若松の桜の蕾や、赤岩黒岩庭園の木々も、巣立って行くみなさんを、職員や在校生と同様に温かく見送り、見守っています。澄んだ目で、もう一度しっかりと見ながら帰って下さい。若松は今後一層頑張っていく筈です。から、新聞で見たリニユース等で聞かされた、若松のこと、想い、末永く応援してくれることを期待しています。



校歌

1千年の波、うちよせる

雲縹渺の 雲霧

望みて立てる 学び舎に

若き生命を 溢るなれ

背に石峰の みどり瀾く

生氣漲る 三三礪陵

若高若高 わが母校

代表幹事 瀨川 賀世子

①ついでこの前、若高坂を歩... 文化祭、体育祭、クラス...

さらば若高 思い出の三星霜

①最も印象に残っている事... ②卒業にあたって今一番思う事...

代表幹事 田中 則行

①これと言って、深い印象... ②先生方などには、いろいろ...

一組幹事 山口 賀久

①もう卒業だなんてどうも... ②とにかいろいろあった...

一組幹事 鬼塚 静江

①高校3年間を振り返って... ②高校生活3年間、多少た...

先生方をはじめとして、諸... 先生方、いたらない私達を...

三組幹事 橋 美奈子

①私が一番残念に思っている... ②もう卒業です。進路も決...

四組幹事 大庭 裕治

①自分にとっては最悪の修... ②一年の時の英彦山研修で...

七組幹事 田仲 孝子

①一年の時の英彦山研修で... ②三年間の高校生活は、中...

五組幹事 千原 敏男

①修学旅行だと思えます... ②卒業にあたって今特に思...

九組幹事 高橋 秀昌

①山車委員という大役を引... ②留年せずに無事に卒業す...

充実した寒稽古

二月四日から七日までの... 委の校長先生から「寒稽古...

完走のよろこび

一年一組 松村 みどり

「寒稽古、四日間、七時十... 五分集合。そう聞いた時、...

スキー教室終わる

二月十六日(日) 晴れ... 午前八時二十五分、多数...

